

2021年度 大成女子高等学校自己評価表

スクール ミッション	社会に役立つ女性の育成 ・多様化する現代社会を自分らしく生きる女性の育成 ・地域社会と協働できる自立した女性の育成。				
教育方針	私学は、建学の精神に則り、常に最先端の教育を行わなければならない。 校訓である「誠実・協和・勤勉」の教えに従い、常に誠実な姿勢、協和を尊ぶ心、何事にも勤勉な態度を身を以て実現し、それを生徒達に還元すること。 生徒・保護者には誠実に対応し、教育者としての尊厳を保ち、何事にも決して安易に妥協しないこと。				
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女子に特化したキャリア教育を展開するべく、全職員でその実現に取り組む。</li> <li>・新学習指導要領への対応を開始し、高大接続改革の動向に注意を払い、大きな変化に対応できるよう準備を怠らない。</li> <li>・本校教育の根幹を成す小笠原流礼法を常に念頭に置いて立ち振る舞い、生徒たちの見本となるべく精進する。</li> <li>・学習支援クラウドサービス (Classi) やオンライン授業のスキル習得、教務管理システム (スクールマスターZeus) の使用方法を研鑽し、ICTの利活用に積極的に取り組む。</li> </ul>				
校務分掌	重点目標	重点目標に対する方策	評価	総合 評価	今後の課題
普通科	CAREER HANDBOOKを活用し、自己管理能力を高めさせる。	キャリアデザイン授業での指導、週1回の提出のほか、HRや他の教科での活用を促す。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手帳活用は生徒間による差が大きく、自己管理する上で欠かせないものとなる生徒がいる一方、全く活用しない者もいる。2年次以降については生徒本人とクラス担任に任せているが、どれだけ活用できているかは不明。有効活用するには、一定程度のコントロールが必要かもしれない。</li> <li>・校外活動については、実施を模索するも実行できたのは、大成学園幼稚園でのセルフ型インターンシップ1件のみ。</li> <li>・キャリアデザイン科の取り組みについての教員間の共通理解は、キャリアデザイン科教員が調査書の文例を作りクラス担任と共有することで、徐々に進みつつある。</li> </ul>
	生徒が地域社会で活動する機会を増やし、キャリアを考えるきっかけや材料となるようにする。	多くのボランティアを紹介したり、セルフ型インターンシップなどへの取り組みを促す。オンラインでの活動も模索する。	-		
	キャリアデザイン科との情報共有をさらに進め、生徒の成長や進路決定につなげる。	クラス担任がキャリアデザイン科の取り組みを把握し、進路選択に向けての生徒への声かけや、調査書・推薦書の内容充実に活かせるようにする。	A		
家政科	専門的な知識と技術を生かし、地域社会に貢献できる人材を育成する。	検定の課題と評価について教員間で共有し研鑽を積む。生徒個人の能力に合わせ、実技等において補習授業などを行う。実習では、事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定について、生徒個人に応じた指導を実施した。また、実習では衛生管理を徹底し、事故防止や感染症予防に取り組んだ。</li> <li>・コンテスト応募では、随時生徒へアナウンスをし、応募を促した。</li> <li>・今年度初めての取り組みとして、株式会社アダストリアと環境活動を行うことができ、地域企業と連携することができた。今後も株式会社アダストリアとの環境活動を継続して行い、服育を通じて地域との連携を強化していく。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で、水戸市社会福祉協議会と連携を取ることが難しい状況にあった。今後、学校家庭クラブ活動の中の募金活動等を通し、水戸市社会福祉協議会との連携を図る。</li> </ul>
		専門家の授業を受けさせることで、高度な技術を身につけさせ、各分野のスペシャリストを養成する。	A		
		コンテスト等への応募を推進し、生徒の意欲を育成する。	A		
	他者と協働しながら自ら考え行動し、社会に適応することが出来る力を養う。	株式会社アダストリアの環境活動に参加し、服育を通じて地域との連携を強化する。	A		
		地域との協働により、社会に適応できる力を身につけさせる。	A		
		地域共生社会実現に向け、授業を通して水戸市社会福祉協議会との連携を強化する。	B		
看護科 (高校)	人々の健康を守ることへの誇りと自信を持ち学びに向かう力を持つ生徒を育成する	ICTを活用した学習習慣の定着を図る ・Classi・スクールワークによる課題・振り返り 朝学習、家庭学習時間の確保 ・平日2時間、休日3時間以上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校全学年にタブレット導入がされたことにより効率よく連絡や課題提出が行われた。さらに看護科行事(国家試験激励会など)はコロナ禍のためICTをより活用して行うことができた。</li> <li>・家庭学習時間の定着は全員が取り組めるよう引き続き指導する。</li> <li>・1名進路変更者がいたが、1年を通して一人ひとりを尊重した進路指導ができたと考える。来年度も生徒との対話を重ねよりよい進路実現に向けて指導を行う。</li> </ul>
	看護師になるという目標をもち一人一人を尊重し共に学ぶ態度を養う	生徒指導・進路変更をなくす ・家庭とClassi、電話を利用した連携 ・毎日の繰り返した生活指導 ・教育相談の活用	A		
看護科 (専攻科)	看護教育を通して望ましい看護観及び倫理観を育み5年間で看護師国家試験受験資格を取得できる教育活動を展開する	2021年度修了生全員の看護師国家試験合格 ・過去問題5年分の完全実施 ・成績低迷者への面談・個別指導 ・グループ学習の促進	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合格率96.7%となつてしまい個別指導の強化が必要である。早期から成績低迷者に対しては学習を確実なものとなるよう定期的な確認を実施する。</li> <li>・今年度は県内就職94.7%、となり実習施設80.6%、進学者2名と目標達成できた。早期から目標を定め計画的に活動ができるよう促していく。</li> </ul>
	生涯にわたって看護を能動的に学び、専門性を高めることにより地域医療に貢献する生徒を育成する	地域に貢献する看護師の養成 ・県内就職率90%以上、内80%以上は実習病院への就職 ・病院説明会の実施	A		
	本校グランドデザインを基に、教育活動および校務の円滑な運営を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位時数に見合う授業時数を90%確保する。</li> <li>・行事の特定日への偏りを100%解消する。</li> <li>・行事日程、展開場所などの重複防止を100%にする。</li> <li>・試験日程2週間前発表実施 100%</li> </ul>	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールマスターで、氏名の外字や、年度末成績の要録への転記など、細かい部分での操作法の周知が不十分である。次年度は対応する。</li> </ul>

教務部		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度選択授業の確定2月末まで</li> <li>・教員研修の実施 年2回</li> <li>・次年度の準備終了 3月31日</li> </ul>	A	A		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールマスターの使い方を周知させる</li> <li>・各種用度品・消耗品等の節約</li> <li>・会議資料のPDF化で用紙代を節約する</li> <li>・保護者あて文書の印刷物配布かClassiでの配信かの区別をする</li> </ul>	A			
学習指導部	生徒一人一人の能力に応じたきめ細やかな学習指導を通して、生徒の学力を向上させる。	<p>アセスメントにおいて成績不振の生徒に対し、放課後の学習指導を行い、学習支援センターの活用も促進する。</p> <p>担任・教科担任、部顧問からの声かけ、学習指導ができるよう情報提供をこまめに行う。</p> <p>成績奨励学生・特待生への学習指導を担任と協働し、徹底する。</p>	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・部顧問などからの声かけ、D3学習会の実施により、生徒、担任も成績を意識するようになり、テスト準備なども念入りに行うようになってきた。今後はD3はもちろん、Dレベル全体を減らせるようにしたい。また、成績奨励学生・特待生の成績向上については、進路指導部とも連携し、工夫が必要である。</li> </ul>	
	生徒の学力向上、新学習指導要領開始に向け、ICT活用を中心に、教員の指導力の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業、遠隔授業等におけるICT活用について、教員の技術力、授業力アップを図るため必要に応じて研修を実施。教員が負担に感じない学びの場を提供するため、短時間の研修回数を増やす。</li> <li>・主体的な研修を行えるよう、研修方法を工夫する。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員間でICT活用能力にかなりの差があること、授業での活用に大きな差があることが問題である。研修については、主にOJTで行っており、その都度分かる教員に質問、相談する体制は整っている。ICT活用については教科によって大きな差があるので、2022年度からのICT・新学習指導要領についてのOff-JTについては教科ごとに行うのが効果的かもしれない。</li> </ul>	
入試広報部	Web出願の定着を図る。	WEB出願の利便性と問題点の理解を広げる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦入試や一般入試の特待生などの合格目安を募集要項に示したことが定着しつつあるように思う。特に推薦での評定目安は一般推薦受験者増につながる。今後、より広く認知されていくとさらに効果的になると思われる。オンライン授業の評価も良い。大成女子のイメージは学力中間層を中心に定着してきており、今後も家政科・看護科の特性を生かしながら募集活動をすべきと考える。教育内容の広報活動や配布物の準備は十分だと思われるが、受験者や教員（塾含む）との接点は、まだまだ他校に比べて少ない。さらに広報活動を進めていく余地がある。</li> </ul>	
	各学校に加え、各塾への広報をさらに積極的に行い、生徒確保に努める。	在籍生徒数の多い塾を中心に訪問対象塾にする。	A			
	各教科指導の具体的なiPad活用方法など特長を広く広報する。	<p>より多くの説明会に参加し、積極的に広報する。</p> <p>普通科・家政科・看護科の3学科の特性をさらに広範囲（より広い地域）に広報する。</p>	A			
厚生部	新型コロナウイルス感染拡大防止対策に務める。生徒の健康の保持増進を図る。職員の健康診断について結果の改善に努める。	<p>手洗い、マスク着用、検温、換気を徹底させる。</p> <p>その他新型コロナウイルス感染症についての情報を発信し、注意喚起を促す。</p> <p>生徒の検診結果を通知文等を利用し、保護者に知らせる。またClassiを利用し生徒の病院受診、治療を勧める。</p> <p>「well being」（保健だより教員版）を年2回発行し、職員の健康に関する情報を伝える。</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も手洗い、マスク着用、換気など生徒、職員の協力により新型コロナウイルス感染拡大防止対策を実施することができた。今後も新しい情報を収集しながら対策を行う。いくつかの学校行事で、感染防止対策のため職員のみで美化活動に取り組むことはあったが、次年度も可能な範囲で委員会の生徒たちの充実した保健、美化活動ができるよう指導していきたい。</li> </ul>	
	学校生活の環境を整える。	<p>年2回、廊下、階段のワックス掛けを委員会で行う。</p> <p>節電に努める。節電に協力してもらえるように保健便りやClassi等を利用し呼びかける。</p> <p>清掃時のチェック表を配布する。毎日の清掃を通して、校内の美化に努める。</p>	B			
特別活動部	1. ホームルーム活動を通して、多様化する社会に貢献できる自立した女性の育成を目標に自主的な態度や健全な生活態度を育てる。	<p>1. ①HRや全校集会を生徒の自発的活動の場とし、年に1人1回はみんなの前で発表する。</p> <p>②奉仕活動の意義を理解させ50%以上の生徒をボランティア活動に参加させる。</p>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校集会をオンラインで行っていたため、ステージなどで発表するのは難しく、表彰や壮行会を行うだけになってしまった。2022年度は生徒会役員と協力し、日頃の部活動の様子などの撮影をし、それを発表しようと考えている。</li> </ul>	
	2. 学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し集団への所属感や連帯感を深め、協和を尊ぶ心を養い、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	<p>2. ①撫子祭ではクラスの団結を強め、また地域との交流を深められるような内容を企画する。</p> <p>②学校行事や撫子祭では生徒の自主性・協調性を養わせ、アンケート調査を実施し所属感や連帯感が深められたかを評価し、満足度を80%以上にする。</p>	B			<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大により撫子祭を実施できなかったが、部活動発表とクラスダンス発表会を行えたことはよかった。今後は、今まで通りの撫子祭の場合と今年度同様の発表会のどちらになってもよいようにクラスダンスなどは映像発表として準備するようにしたい。</li> </ul>
	3. 部活動を通して、良識ある人間として地域社会に融和できる女性を目指すための能力を養う。	<p>3. ①生徒が部活動の充実と発展に努め、積極的に参加し入部加入率を75%以上にする。</p> <p>②部活動を通して地域社会に融和することや、貢献できるように各部で活動計画を立てる。</p>	B			<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度はコロナ禍で1年生の部活動体験を行えず、加入率が低かったため、次年度は7時間目として体験入部を行えるようにする。また、全校集会の発表などを通し、年間を通して部活動の発表を行いたい。</li> </ul>

	4. iPad他の通信機器を行事等で活用する方法を実践しながら模索する。	4. 行事の中で、動画の活用や、YOUTUBEなどを用いての実況中継の方法・ルールを模索する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスダンス発表はそれぞれ工夫して動画を作成できたので、今後も動画を用いて行わせるようにしたい。</li> <li>・バレー部の全校応援はコロナ禍で実施できず、試合をYOUTUBEで生徒に配信した。今後は会場には入れなくても全校生徒が応援できるよう企画する。</li> </ul>
進路指導部	生徒が自分の将来の希望を実現するのに適した上級学校を選択し、入学できるよう援助する。 進路未定のまま卒業する者0名、普通科の大学・短期大学進学者60%(58名)以上、普通科・家政科の茨城女子短期大学進学者20%(26名)以上。	校外の相談会や上級学校のオープンキャンパスを告知し、生徒の積極的な参加を促す。 進路資料室や校内掲示板を充実させ、生徒が情報収集しやすい環境をつくる。 入試制度や修学支援制度の最新の情報を、生徒・保護者にわかりやすく伝える。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生の進路状況については、概ね目標を達成できたが、茨城女子短期大学への進学者数については課題が残る。進学先として選ばれるよう、短大との連携をさらに深め、生徒に魅力を伝える必要がある。また、国公立大学や上位私立大学に合格できる学力を養成できていないことも大きな課題である。</li> <li>・生徒・保護者への進路に関する情報提供は、一定程度行うことができています。</li> <li>・進学については、新課程入試に向けての変化がすでに始まっているし、就職については、コロナ禍に加え世界情勢がどのように影響するか不透明である。最新情報をいかにキャッチし提供できるかが課題である。</li> <li>・キャリアパスポートは、形式的には整えることができたので、実効性を持たせる工夫を行いたい。</li> </ul>
	生徒が自分の希望する職種や職場を選択し、就職できるよう援助する。 就職希望者全員が内定(正規雇用)。	ハローワークと連携し、生徒の希望に応じた就職先を紹介する。 課外授業やHR等での活動を通して、生徒に自身の適性を認識させ、職業選択におけるミスマッチを防ぐ。 課外授業を通して、履歴書の作成や面接・適性検査への対策を行う。	A	
	生徒・保護者との情報共有や、生徒の進路に対する意識向上、生徒の進路決定のために、ICTを積極的に活用する。	Classiの校内グループを通じて、生徒・保護者に情報提供を行う。 Classiのアンケート機能を用いて、キャリアパスポートを運用する。 ZoomやTeams等を使ってのガイダンスや、オンライン面接の対策を実施する。	A	
生徒指導部	1. 基本的生活習慣の育成 ・カリキュラム・ポリシーに採用されている小笠原流礼法に則った挨拶・言葉遣いの徹底を図る。 ・正しい学習態度を身に付けさせる。 ・正しい制服の着用及び容姿を整えさせる。	① 学年主任及びその他教員による立哨指導で注意喚起を徹底して行う。 ② 校内・校外巡視等を定期的に行うことにより、指導する。 ③ 授業の開始・終了時に小笠原流礼法に則った挨拶を各教員が指示する。 ④ 各教員が校外で乱れた制服の生徒を見かけたら、躊躇せず言葉をかける。 ⑤ 授業ぼうがい及びこれに準ずる行為については、各教員が毅然とした態度で望む。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝の立哨指導・校内巡視が効力を発揮したのか、校内・外でも服装が特別酷く乱れていた生徒はいなかったようである。しかし靴下を下げている生徒は目立った。引き続きこれを課題とする。またコロナも終息の兆しが見えないので、昼食時の黙食を生徒に励行させるために昼食時の巡回も引き続き実施する。</li> <li>・重点目標に対する方策が功を奏し、SNS関係の事案は影を潜めている。しかし手軽に操作できる機器を持っている時代なので、引き続き何か新しい指導方法を模索し続けることが課題である。</li> <li>・毎日の学年主任との立哨指導で情報共有・連携は図れている。しかし年度末に近づくにつれて教員個人との共有の度合いが薄くなるように感じられた。次年度は翌年3月まで情報の共有を年度当初と同じように保つことを課題とする。</li> </ul>
	2. 情報モラルの育成 ・SNS関連のトラブルの発生を防止する。	① 情報の授業だけではなく、関連する全ての授業を通して情報モラルの向上を図るための指導を行う。 ② 危機意識の向上を促進するために、茨城県メディア指導員及び警察署職員等による講話指導を通しての注意喚起を行う。 ③ HR、小笠原流礼法さらには様々な日常の活動を通して、コミュニケーション能力の向上と他者への思いやりの心を育ませる。	A	
	3. 教員相互の連携を図り指導にあたる ・学年間の連携に留まらず、学年の垣根を越えた教員相互の密接な関係構築によるスムーズな指導。	生徒指導会議を学期末に開催し、情報の共有化をはかり、引いては教師間での指導の格差は正につなげる。	A	
メディア統括部	グランドデザインを基に「元気で活発な学校」「きめ細かい指導をする学校」「特色のある学校」というイメージをつくり、在校生・保護者・中学生・地域・同窓生等に広く伝え、受験者増、入学者増、学校の評価の向上に繋げる。 教室の通信環境を整え、学習指導部と連携してICT活用授業の拡充を図る。	ToSay!ブログ・SNSなど、インターネットを活用して、デジタル面から積極的にPR活動を行う。  道路沿いの横型懸垂幕を活用し、年間を通して常に掲示できるようにしてアナログ面からのPR活動を行う。  教職員及び生徒がICTの利活用に積極的に取り組めるように、生徒用学校指定iPad、職員用PCおよびiPad、教室設置のAppleTVの活用方法を教化する。	B  B  A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事が制限される中、可能な限り最新情報の発信を行うことができた。ブログの更新、懸垂幕による情報発信を今後も継続していく。本校WEBサイト内の情報更新が今後の課題である。合わせて、密状態を避けるためのオンラインライブなど、他のメディアを使った情報発信を臨機応変に行うことも今後の課題である。</li> </ul>
	図書室を積極的に利用させ、読書の習慣を身につけさせる。	・生徒・職員が利用しやすい環境づくりを行う。 ・各分掌、学科・コース、学年と連携し、良書を選定し購入する。また、各教科、学年と協力して読書指導を行う。 ・ICT機器の正しい利用の仕方と著作権に関する理解を深めさせる。	A	
	生徒図書委員会の運営を充実・発展させる。	・委員各自が運営方針に沿って活動できるようサポートをする。 ・図書委員をオンラインによる他校との研修を行う。 ・選書会議(生徒・職員による)を行い、図書費の有効活用を図る。(スクールミッションに見合ったもの)	A	
図書館部	ICT機器を活用し、作業効率の向上を図る	図書委員の活動方法のレクチャーや、全校生徒対象の図書館利用の手引きなど、さまざまな場面で動画説明を活用することで、作業効率を向上させる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の登校日には通常開館し、利用者へのレファレンスを行った。生徒や職員、各校務分掌から希望があった図書を購入し、需要に応じた図書や視聴覚教材を役立てることができた。</li> <li>・コロナ禍の生徒委員会活動には、徹底した感染防止対策を講じて活動した。委員の役割や作業内容を動画で説明し、活動が密にならないように時間をずらすなどの工夫をし、通常の活動を行った。選書会議と動画による説明は引き続き行う。</li> <li>・他校との研修は、学校行事と重複したため参加できなかった。</li> </ul>

1学年	<p>「多様化する現代社会を自分らしく生きる」ために、基本的な生活習慣を身につけさせ、規律ある生活をさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小笠原流礼法を習得させ、心のこもった挨拶や場面に合わせた言葉遣いを身につけ、正しいコミュニケーションがとれるよう指導する。</li> <li>・規範を守る必要性を理解させ、安易な欠席、遅刻、早退を減らすように健康管理に留意させる。</li> <li>・公共の場においてマナーやルールを正しく理解させ、日頃から規範意識を高めさせる。</li> <li>・主体的な学習態度を育成し、進路実現に向けての学習習慣を定着させる。</li> <li>・定期的な面談などを通し、生徒の家庭環境の把握に努めるとともに、生活の乱れや心理的な変化に迅速に対処する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校則等の規則の遵守を継続的に促した。大きく生活の乱れが見られた者はいなかった。</li> <li>・生徒との面談を通し、生徒の状況把握に努めている。</li> <li>・感染対策防止のため日々の体調調査の入力を促しているが、休日の入力状況が悪いので徹底させたい。</li> <li>・「すらら」の効果的利用についてや朝学習の方法などは、継続検討課題である。</li> </ul>
	<p>「地域社会と協働できる自立した女性の育成」を目指し、豊かな人間関係を構築させ、他者と協働し最善を尽くすことで自立心や思いやりの心を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者との関わり合いの中で、自分を知り、相手の考えを理解し尊重できる心を育てる。</li> <li>・遠足、スポーツフェスティバル、撫子祭などの学校行事を通して、他者との関わり合いの中で人をいたわり思いやる心を育てる。</li> <li>・生徒会、部活動、委員会活動等を通して、与えられた役割を確実に果たせ、組織の一員としての自覚を持たせる。キャリアパスポートを活用し定期的な振り返りをさせる。</li> <li>・情報リテラシーを養わせ、コミュニケーションスキルを向上させる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年末の成績優良者数は普通科51名（47%）家政科は19名（48%）看護科は38名（77%）。また英単語テスト55名（195名）28%、国語テスト68名（195名）35%。成績下位層の学習習慣を定着させたい。</li> <li>・スポーツフェスティバル、ダンス発表会、進路ガイダンスや職業に関するオンライン講演、近代美術館での分散方式の芸術鑑賞等を実施することができた。</li> </ul>
2学年	<p>1. 「多様化する現代社会を自分らしく生きる」ための能力を育てるために、主体的に学ぶ姿勢と、様々な「挑戦」や「貢献」に必要な学力を養成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路説明会やガイダンスを通じて、自己の適性や学問領域、職業に対する理解などを深めさせ、進路選択のために必要な学力を向上させ、メディアリテラシーを養わせる。</li> <li>・ベネッセアセスメントのD3段階の生徒をなくし、国語テスト・英単語テストの年間成績優秀者を学年人数の40%（70人）以上になるように、家庭学習の徹底を図る。</li> <li>・各種検定試験や校外模擬試験を積極的に受験させ、自己の学力を客観的に知ること、学習意欲の向上につなげる。</li> <li>・コロナ禍における自己の行動に責任を持たせ、感染拡大防止に努めさせる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2者面談を実施し、生徒の状況把握に努めた。生徒や保護者への連絡は、配信内容を学年内で共有したことで指導の差異が減少し、保護者との連携も強化できた。</li> <li>・校則等の規則の遵守を継続的に促した。大きく生活の乱れが見られた者はいなかった。</li> <li>・進路指導部と協力し、進路選択に必要な情報提供をした。校外での進路ガイダンスに加えて、個々の適性を判断するためのアンケートや各種調査を利用し、担任との面談を行うなどして、年度末には志望理由書の書き方までの指導ができた。</li> <li>・ベネッセアセスメントD3の生徒に対しては、学習会への参加を通して、家庭学習の必要を意識させねばならない。日々の声かけと観察、保護者との連携強化すべき継続課題である。</li> <li>・月例テスト年間成績優良者は、英単語約25%（45名）、国語約21%（38名）と目標を達成できなかった。テストの機会がオンライン期間と重なり中止になるなど、小目標ごとのやる気が削がれたことも要因の一つだが、家庭学習の習慣化に向けて指導を強化したい。</li> <li>・各家庭の協力も得て、感染防止対策を行うことができた。</li> </ul>
	<p>2. 「地域社会と協働できる自立した女性の育成」を目指して、他者との関係の中で自己を成長させ、体験的な学習活動を通じて社会性を育てる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小笠原流礼法の学びを意識して行動させることにより、豊かな人間性とコミュニケーション力を身につけさせる。</li> <li>・スポーツフェスティバル、撫子祭、修学旅行などの学校行事に主体的に取り組ませることで、連帯感や達成感を体得させる。</li> <li>・生徒会や部活動、委員会活動などを通して、積極的に周囲とのコミュニケーションを図り、自己の役割を全うさせることで、実行力と責任感を養う。</li> <li>・基本的な生活習慣を整えさせ、定着させることで、安易な遅刻や早退をなくす。</li> <li>・生活の乱れや心理的不安に起因する生徒の言動に対しては、迅速に保護者と連携し、丁寧に対応する。</li> <li>・校則の周知徹底を図り、違反した者については学年全体で丁寧な個別指導を行い、誓約書を伴う指導を減らす。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事も新型コロナウイルス感染症の影響で行事の規模の縮小や変更を余儀なくされたが、それぞれの場面で、各々が主体的に取り組むことができた。修学旅行は信州～北陸方面で実施し、学年の52%が参加した。安全に注意して催行した結果、体調不良者が出ることもなく、大変よかった。</li> <li>・中堅学年として率先して行動させ、係や委員会の仕事などに取り組ませることができた。自己の役割を果たし、リーダーシップを発揮できた者も多く、学校生活を充実させることに繋がったようである。</li> <li>・コロナ禍が続いたり、家庭に籠るオンライン授業があったことで、対面での学校生活への抵抗感が増した者や、外出を不安がる生徒が増えた。生徒本人との面談や保護者の協力を得るための家庭訪問や面談などは、引き続き注意して行う必要がある。</li> </ul>

3学年	1. 「多様化する現代社会を自分らしく生きる」ために、主体的に行動させ、自己実現を目指させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的な学習態度を育成し、学力の向上を図り、進路決定を実現させる。</li> <li>ベネッセアセスメントの学習到達ゾーン(GTZ)をDゾーンからCゾーンへの底上げを図る。</li> <li>国語テスト・英単語テストの年間成績優秀者数を学年人数の1/3(55名)を目指す。</li> <li>遠足・スポーツフェスティバル・撫子祭などの学校行事の参加を通して連帯感や達成感を体得させる。</li> <li>生徒会、部活動、委員会活動などで、後輩を指導すること等により、責任感を養わせる。</li> <li>挨拶・言葉遣い・時間の遵守・清掃を丁寧に行うなど、身につけた基本的生活習慣を実生活に活かせるよう指導する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路実現に向け、主体的に学習する姿が見られた。</li> <li>ベネッセアセスメントの学習到達ゾーン(GTZ)のDゾーンからCゾーンへ移行した生徒は多く見られた。学習指導部の放課後の学習会の対象者になるまい、という思いがきっかけとなり、真剣に学習した成果だと思われる。</li> <li>国語テスト・英単語テストの年間成績優秀者数は、卒業生162名中、国語テストが57名、英単語テストが44名で成績優秀者であった。</li> </ul>	
	2. 「地域社会と協働できる自立した女性の育成」を目指し、集団生活の中で規律ある態度を養い、心豊かな人間性を育む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「小笠原流礼法」を身につけ、一人の自立した女性になるために大切な立ち振る舞いを実生活に活かせるよう指導する。</li> <li>他者との関係の中で自己を成長させ、自立心や相手を思いやることのできる心を育てる。</li> <li>校則に違反した生徒に対しては、丁寧な個別指導をする。</li> <li>制服を正しく着用し、身だしなみを整えるよう、学年の共通理解のもとに指導を行う。</li> <li>朝学習の内容を学年全体で常に見直ししながら、生徒が継続して学習できるようサポートする。</li> <li>SHRや合同HR、集会など機会ある毎に、時間を遵守ことや、挨拶、話を聞く態度等について指導する。</li> <li>欠席遅刻の多い生徒や生活の乱れが目立つ生徒には 保護者に連絡をとりその対応をする。</li> <li>ホームルーム活動や学校行事等を通して、協調性や他者の考えを尊重する態度を養う。</li> <li>生徒が主体性を持って活動できるよう、学級活動や授業等を通して情報リテラシーを養わせる。</li> <li>推薦・総合型選抜入試や就職試験の対策の一貫として、面接練習を学年の教員全員で行う。</li> <li>進路指導部と連携し進路に関する最新情報の入手に努め、生徒に情報提供する。</li> <li>情報活用能力を育成するため、ICTを効果的に活用した教育活動を行う。</li> <li>各種検定試験や校外模擬試験の受験を促し、自己の学力を客観的に見ることで、学習意欲を向上させる。</li> <li>公共の場においてマナーやルールを守って行動できるよう、日頃から規範意識を高めさせる。</li> <li>コロナ禍における自己の行動に責任を持たせ、感染拡大防止に努めさせる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠足は日帰りで富士急ハイランドに行ってきた。参加率は半数を超える程度であったが、充実した遠足になった。スポーツフェスティバル、撫子祭(代替行事)も行うことができた。</li> <li>生徒会、部活動、委員会活動では最高学年としての責任ある行動を取ることができた。</li> <li>挨拶・言葉遣い・時間の厳守は進路決定に向けた活動を通して培うことができた。清掃は監督の先生のご指導のもと、しっかり取り組むことができた。</li> </ul>	
国語	基礎的な学力を充実させ、表現力・理解力を養わせる。	授業を通して、読む・書く・聞く・話すの学習活動を実践する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞文や要約文のまとめや発表、単元の関連書籍や短編作品を読み比べるなどの学習を組み込み、授業を展開した。定期試験での記述問題の実施や、新聞記事・コラムなどの活用方法を国語科全体で検討し、学力向上につなげていきたい。</li> <li>配信課題への取り組みと対面確認で学習の進捗具合を確認し、生徒のモチベーションを維持する努力をした。ICT機器を利用して自己学習のチェックなど、目の届きにくい学習への継続したサポートができるようになった。</li> <li>単元の学習内容や模試の内容に見合う学習動画を厳選したり、デジタル教材の利用研究が今後の課題である。オンライン授業への対応や、ICT機器の使用による密度が高く効率の良い指導方法について、教科内で継続して研修を行う必要がある。</li> <li>基礎学力向上に向け、月例国語テストの計画的学習が単発学習にならず、検定や読書指導につながるよう指導した。取り組み方や成果表出の状況は個人差が大きいですが、引き続き丁寧に指導を行っていく。</li> </ul>	
	生徒の学力にあった系統的な指導をする。	学年ごとの指導内容を精査し、系統立てた指導をする。単元ごとの内容の理解度を把握するために学習課題ノートやWebテスト等を活用する。	A		
	進学・就職の目標を達成させるため、国語テスト等の学習を通して国語力の向上を図る。	国語テスト等の単元ごとの課題提出を行う。Classiやすららを活用させ、自学自習を習慣化させることで、基礎学力の向上を図る。	A		
地歴	時代の流れ・各時代の重要な出来事・重要人物について知る。また、地図を通して基本的な地理的な見方や考え方を身につける。ipad等の情報通信機器を授業中に活用し、効率的な授業展開や生徒の情報活用能力の向上を図る。	ワーク・問題集を購入し、分野別に確認テストを実施する。また、DVD映像などの視聴覚教材を利用し知識の定着を図る。ipad等情報通信機器を活用した授業を研究し、使用方法について、社会科研修などを通じて、地歴化の中での共有を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通して、ワークをこまめに使用しながら学習することができた。iPad等の情報通信機器を利用した授業も定着した。次年度は新しい学習指導要領に則った授業を心がけ、アクティブラーニングを積極的に取り組みたい。</li> </ul>
公民	政治的分野・経済的分野・倫理的分野の基礎用語の意味を理解させ、身近な社会との関係について知る。ipad等の情報通信機器を授業中に活用し、効率的な授業展開や生徒の情報活用能力の向上を図る。	ワーク・問題集を購入し、分野別に確認テストを実施する。また、新聞を活用し、時事問題などを取り上げて知識の定着を図る。ipad等情報通信機器を活用した授業を研究し、使用方法について、社会科研修などを通じて、地歴化の中での共有を図る。	A	A	

数学	学習習慣を定着させる。	問題集やすらで定期的に課題を配信し、課題が進んでいない生徒へ担任とともに声かけを行う。	B	B	ICTを有効利用した学習方法を確立する。
	基礎学力の向上を図る。	1年普通科は習熟度別でグループの学力に合わせた授業を行う。学習の理解度を把握し、個々に応じて指導を行い、学習支援センターの利用を促す。すらで生徒の苦手とする分野の課題を配信する。	A		学習支援センターやD3勉強会と連携した学習指導を確立する。
理科	授業で学んだことを元に、グループワーク、ディスカッション、実験等によって、身の回りの諸問題やSDGsを自分事として捉え、探究することを目指す。	身の回りの諸問題やSDGsを授業に関連づけて紹介する機会を増やし、グループワーク・ディスカッションなどを積極的に行う。実験の機会を増やし、実験結果だけでなく、自分で調べたことなどもレポートにまとめさせる。コロキウムでは、SDGsに関する内容を講義いただく。	A	A	・実験、グループワーク等を通し、身の回りの現象、諸課題を意識し、自分ごととして考える機会を設けることができた。 ・コロキウムは大学側の都合が変更になり、2年1組だけの実施となった。次年度は、安全かつスムーズに実験を行うために、クラス人数によっては相当の工夫が必要である。
	ICT教材を作成、活用し、スムーズな授業を行うことで、実験・探究などの時間を確保する。	プレゼンテーションソフトやICT教材などを活用することで、板書する時間などを減らし、生徒自身が考え、活動する時間を増やす。	A		・ICTを活用し、スムーズな授業で時間を確保することができたクラスが多かったため、グループワークやディスカッション、生徒自身がプレゼンテーションソフトを使って発表するなど、生徒自身が主体的に授業に参加する機会を増やすことができた。クラスによって差があることは否めないため、非常勤教員を中心にサポート体制を整える必要がある。
	基礎学力の向上を目指す。	アプリLibryを導入した科目を中心に、これまで難しかった家庭学習指導を宿題配信など通して、定期的に行うとともに、声かけを徹底する。それ以外の科目も、必要に応じて問題演習等の宿題を課し、定期試験の他に小テストなどを行う。	A		・1組を中心に定期試験、小テスト等で相応の結果を出すことはできたが、テスト前だけ学習する生徒が多く、入試に必要な学力まで到達していない。 ・Libryを導入した科目で配信など可能になり、学習状況の把握がスムーズになったが、クラスによって利用状況に大きな差があった。
保健体育	体力の向上をはかり、公正、協力、責任などの態度を身につけさせる。社会に役立つ女性になるべく、社会生活における健康、安全に理解を深め、自らの健康を適切に管理し改善していくための資質や能力を身につける。	個々の運動能力に合わせて到達技能を設定し、タブレットを活用して全員がクリアできるように指導する。	A	A	・人数の多いクラス（38名～45名）の授業展開の工夫が必要である。待ってる時間を極力少なくする努力する。選択体育において、希望通りの種目ができない生徒が多くなってきている。種目を再検討する必要がある。
		種目の選択とともに、グループを編成し個々の役割を実践させる。	A		
芸術	音楽・美術・書道に親しむ活動を通して感性を豊かにし、自己を表現するための基本的能力を伸ばす。	・音楽では鑑賞に加えて楽典や声楽のテストを実施する。 ・美術・書道では基礎的な表現技法を習得させ、鑑賞能力を養うことで創作活動に取り組ませる。 ・ICT機器を活用し、鑑賞の機会を増やすことで鑑賞力を向上させる。 ・実技指導としてICT機器を有効活用する。	A	A	・オンライン期間の指導を、対面でも活かすなど、わかりやすい指導を目指して授業を行った。技法の説明や模範動画をういたり、スクールワークでレポートを提出したりするなど、利便性が向上し、生徒の理解も深まったと思われる。芸術科教員による幅広いICT機器の利用の仕方を継続したい。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、校外の展覧会への出品や陳列の機会が減少し、活動が制限された。次年度に実施されることを期待し、生徒の活動の幅が広がった際には対応できるよう準備をしていく。
		・文化祭などの学校行事における発表や、校外の展覧会への出品を通して、積極的に表現活動へ挑戦させる。	A		
外国語	ライティング力を中心に英語表現力向上を、iPadなどICTの活用を通して図る	日記活動による「書くこと」の継続的指導をする。	A	A	・年間を通して、学科として協力して指導ができた。デジタルペンシル動作環境が不安定で、指導に不具合がたびたびみられた。全体としてはきちんと指導できた。評定との扱いが今後の課題である。 ・新しい英単語テスト指導内容に変更し、より高い語彙力の向上が期待できる状況になっている。指導方法をさらに検討し、卒業時に十分な語彙力を身につけられるようにしていく。 ・iPadを用いた英語の授業については、moodleの利用やデジタルペンシルの利用方法の工夫など広範囲に渡ってきている。
	従来の教材利用をもとに、指導内容や使用教材を再検討し、基礎力の充実を目的に語彙力の向上を図る	校内一斉英単語テストに加え、コースの特性や生徒の希望進路に合わせた語彙指導を実施する。	A		
	iPadの活用を伴う英語による授業展開方法と方法の研究開発を継続する。	英語で展開する英語授業の実践とiPadを活用した授業展開の研究を継続する。	A		
家庭	「フードデザインコース」「ファッションデザインコース」の各コースにおいて、職業人としての知識・技能を習得させ深く学べる教育活動を展開する。	ICTを効果的に活用し、生徒の能力に応じた教材等を探究する。生徒一人一人の課題を把握し、多様な能力・適正、興味関心などに応じて指導助言する。基礎学力の向上と、実技における基礎・基本の定着させる。	A	A	・生徒の能力に応じた教材等を探究し、ICTも活用しながら授業を行った。生徒自身の課題について、指導助言を行うことができた。 ・専門家から直接指導を受けることで、高度な技術を身につけることができた。また授業の様子など、できる限りSNS等で発信した。
	専門的な技能を習得し、居住地域において主体的に貢献できる人材を育成する。	プロフェッショナルの講師の授業を受けさせることで、高度な技術を身につけさせ、各分野のスペシャリストを養成する。生徒の活動を外部へ発信していく。	A		

情報	自分に必要な情報を正しく読み取り、発信する能力を育てるとともに、適切なコンピュータリテラシーを身につけ、情報伝達の方法と情報発信の危険性について理解する。	「MicrosoftOffice365」を活用し、ネットワークを利用した双方向性のあるコミュニケーションに積極的に取り組ませながら、バーチャルおよびリアルでのコミュニケーションスキルを習得させる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・双方向性のあるコミュニケーションツールを積極的に取りこませることで、オンライン授業にも対応できた。PCを活用した授業はできているので、PCを使えない状況でも対応できる授業内容にしていくこと今後の課題である。</li> <li>・ネットコミュニケーションが主流になっている中、ネットトラブルは他人事のような意識でいる生徒が多ため、自身の問題として意識させることが今後の課題である。</li> </ul>
		SNSなどネットトラブルに巻き込まれないための知識が身に付くように、実例動画を活用して情報モラル指導を徹底する。	A		
看護	看護の体系的・系統的な理解と関連した技術を習得し確かな学力を育成する	<p>基礎的な看護技術の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後の実習室使用率を60%以上に維持</li> <li>・主要基礎技術の確認試験の合格率を100%</li> </ul> <p>基礎的な看護知識の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目試験を再試験により合格する</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後の実技練習は60.9%でありコロナ禍で実習室の利用ができなかったことを考慮すると活用できていたと考えられる。そのため確認試験は100%の合格であり看護技術の定着が図れたと思われる。今後も自己学習の場としても放課後の実習室を活用していく。</li> </ul>
礼法	小笠原流礼法を通して、家庭や学校、地域など社会との関わりを円滑に出来る生徒を育成する。また、一人の女性として自立するために大切な立ち居振る舞いを習得させる。	礼法研修に積極的に参加し、教員の意識向上をはかる。学校生活の基本である始業の礼、終業の礼の意味を理解させる。また、日常生活における立ち居振る舞いなど、礼法の基本を理解させる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・礼法の教科書を読み、所作等について復習し、常に家庭科教員の意識向上を図っている。今後も、指導方法について情報交換を行い、生徒自身に礼法の基本を理解させられるよう、授業内容について充実を図っていく。</li> </ul>
キャリアデザイン	II Bの各フィールドにおいて、地域など実社会との連携を大切に探究型プログラムを工夫し、実践する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回のキャリアデザイン研修時間を確保し、科目、フィールドごとに全員で検討を行う。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各フィールドとも可能な範囲で探究型プログラムを試行し、2023年度向けの準備をおこなっている。また、探究型プログラムについては、監修していただいている団体・個人との相談を進めている。</li> <li>・I Aは既に探究型プログラムを実施しており、問題はないが、インターンシップなど実施が難しいプログラムについては、工夫が必要である。</li> <li>・各フィールドとも生徒自身の発表の機会を増やすなどし、生徒自身が学びを表現できるようサポートできた。またその結果、キャリアでの学びを進路決定に活かすことはある程度できたが、一方で、担任・学年へのフィードバックなどは更なる工夫と意識改革が必要である。</li> </ul>
	2022年度からの学習指導要領改訂に向けて、IA・II Bともに探究型プログラムへの修正を検討し、大枠を決定させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部団体の活動について、積極的に調査、研究を行う。</li> </ul>	A		
	入試システムの変更に適切に対応し、これまで以上にキャリアで学習したことを進路決定に活かせるよう、担任・学年へのフィードバックを行うとともに、生徒自身が適切に表現できるよう、サポートを徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合型選抜、学校推薦型選抜に向けて、進路指導部と連携し、教科全員でフォローを行う。</li> </ul>	B		